

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル7階 TEL 03-6380-8540

令和5・6年度の役員が決定

令和5年度第1回総会において、令和5・6年度の執行体制（役員）が、左記のとおり、決定されました。

なお、役員名には表記しておりませんが、会長及び副会長、常務理事は理事の中から選出されておりますので、理事を兼ねております。

また、副会長名の後の（一）内には学識経験者又は令和5年度の全国大会の開催地を、理事氏名の後の（一）内には令和5年度または6年度の地区大会の開催県を表記しています。

会長 鈴木 眞理（学識経験者）
副会長 大島 まな（学識経験者）

常務理事 神山 敬章（学識経験者）
井崎 高信（宮崎県）
稲葉 隆（学識経験者）

理事 神部純一（学識経験者）／岩野真志（北海道）
菅原敏元（宮城県）／白川喜代美（青森県）
斎藤陽子（栃木県）／徳本達之（福井県）
山西潤一（富山県）／川端 一（滋賀県）
森川知史（京都府）／有馬毅一郎（島根県）
馬場祐次朗（徳島県）／岩橋恵子（鹿児島県）
牧野 篤（横浜市）／本郷真紹（京都市）

監事 古矢鉄矢（横浜市）／田中謙二（税理士）

令和5年度第1回総会において、顧問が選任されました。

顧問 山崎 清男（前副会長）

継続と変革と

全国社会教育委員連合 会長
鈴木 眞理



全国社会教育委員連合の会長を、また2年間担わせていただくことになった。会長を受ける前に「組織のあり方検討委員会」に加わらせていただいていたが、その時の報告書では、「明るい未来」など描けない状況だった。二年ほど後の2020年に東京オリンピックが予定されていたが、報告書では、「このままでは、この組織は東京オリンピックまで持たない」という自虐的とも思える表現を用いざるを得ない状況だった。寄付に頼って当座を凌ぐことも試みられたが、さして意味があったわけではない。毎年600万円の収入不足が生じているという状況が放置されていたのだ。

理事会メンバーに丁寧の説明し、何度も議論を重ね、①人件費の適切な額への移行（職員に負担を強いたわけではない）、②無駄な事務経費の節減（身の丈に合った事務機器等への更新）、③会費（県等から全国組織への負担）の改訂に関して理解を得ることができ、やっと収支が均衡する状況が見込めるまでになって来た。議論の過程で、何人もの県等の会長さん達に状況を理解いただき、方針を支持していただいたが、その方々の中には、会長を退かれたり、ご逝去された方も、少なくはない。

だんだん、「昔のこと」を知らない理事の方や関係職員の方が増えてきている。五年十年関わっている人には、今、この組織が存続していること自体が不思議だと思えるのだけれうが、これまでの経緯を理解しないと、いずれ消滅する組織になるのではないかという私などにはある危機感はわからないだろう。関係者が、「当事者意識」を持って、小さなことにも気をつけながら運営にあたるのが求められるのである。継続と変革のバランスを心がけながら、新たな動きを創出できるかが問われる。

幸せを実感できる未来を
ともにつくる社会教育



全国社会教育委員連合
副会長
大島 まな

この5月より全国社会教育委員連合の副会長を仰せつかりました。社会教育委員の全国組織としての本会の役割を考えますと身が引き締まる思いです。微力ではございますが精一杯努めますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

変化の激しい時代の中で危機感が強まり、未来を不安にしています。未来をつくるのは人、人をつくるのは教育です。新たな教育振興基本計画では、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」がコンセプトの一つとして掲げられました。Wellbeingとは、「身体的・精神的・社会的に良い状態にあること」で、経済的な豊かさや短期的な幸福(Happiness)のみならず、「生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念」で、「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じる」とともに、「地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなる」教育の在り方が求められているというのです。特に、社会教育による「学び」を通

じた人々の「つながり」や「かかわり」は持続的な地域コミュニティの基盤となり、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環が生み出されることで、個人と地域全体のウェルビーイングが向上するとされています。すなわち、社会教育は私たちの幸せを支える大切な条件ということが明記されています。私自身もそうですが、地域でさまざまな人と共感的・協動的な関係を築いてこられた社会教育委員の皆様は、恐らくそのことを実感しておられることと思います。

変化があまりにも激しく、予測がますます困難な時代の只中であって、地球規模でも身近な地域レベルでもさまざまな課題が山積し、強い危機感や焦燥感にかられることが多くなりました。変化にむやみに振り回されることなく、教育の「不易」を確認しながら、将来を見据えた「持続可能な社会の創り手」を育成すること、あるいは自分もその担い手の一人であり続けるためには、学び続けること、ともに行動することしかありません。本会の情報共有や研修等諸事業はそのためにこそあるのだと切に感じております。皆様の引きつづきのご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

新しい時代に開かれ、つながる
社会教育の構築をめざして



全国社会教育委員連合
副会長
神山 敬章

全国社会教育委員連合の令和5年度第1回理事会、総会において副会長に指名を受け、僭越ながらお引き受けいたしましたこととなりました。就任に際し一言ご挨拶申し上げます。

私の社会教育との関わりは、大学院時代教育社会学を専攻したことに始まります。

東京の明星大学に奉職後、昭和62年に同一法人のいわき明星大学創立に伴い福島県いわき市に異動し教育研究に従事し平成28年法人分離に伴い大学籍を東京に戻しました。昨年春明星大学を定年退職し今日に至ります。

この間、いわき市社会教育委員を平成12年より、また福島県市町村社会教育委員連絡協議会会長を平成30年より務めて現在も職務遂行しております。また同年から東京都青梅市社会教育委員も兼務しております。

社会変動が激しい現代社会にあって、社会教育の重要性は言うまでもありませんが、昨今の教育

改革の推進の中、平成30年の中央教育審議会答申にもあるように「社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」の重要性が強調された中で、改めて社会教育の役割を明確化、具体化することを提言しています。すなわち、人生100年時代を迎える中で誰でもが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を個人の生活や地域での活動等に生かすことのできる社会教育、生涯学習の実現をより推し進めていく必要があります。社会教育はその中核的な役割を担っていると示されています。

社会教育の今後の方向性は、社会教育委員は、委員の見える化をより図り、委員のアイデンティティの確立、専門的立場での企画、立案、指導、助言をし続けなくてはなりません。単なる名誉職やあて職から自覚的行動のできる委員への転換を図らなくてはなりません。更には自ら実現をめざす市民の後方支援の実践をする中で自己変革、自己実現をしなくてはならないのです。私も社会教育委員の原点に戻り行動する委員の一人として鈴木眞理会長を支え全国社会教育委員連合のために精一杯尽くす所存でありますので宜しくお願い致します。

引き続き安定した運営に
努めます



全国社会教育委員会連合
常務理事
稲葉 隆

引き続き常務理事を仰せつかりました稲葉隆です。

この2年間、さまざまなことを手探りで進めてまいりました。そのうちの大きな一つに、各地区、各県等のご担当者とのコミュニケーションを図り、各県等の社教連の状況の把握に努めてまいりました。

お気づきの方も多いと思いますが、「社会教育委員連絡協議会」と称するところが多いですが、「社会教育連絡協議会」や「社会教育委員協議会」というところもあります。また「市町村社会教育委員連絡協議会」というところもあります。さらに、会員の範囲や会長の選出方法なども同様ではありません。こうした違いこそがそれぞれの社会教育委員連絡協議会の実情そのものといってよいでしょう。こうした実情に触れ、違いを感じるたびに、委員連合の役割や事

業のあり方を考えてきました。

社会教育委員の具体的な活動はそれぞれの地方公共団体によって異なります。社会教育委員及び社会教育委員の会議の活性化が言われて久しいですが、他地域の社会教育委員の活動などの事例や取り組みの考え方を理解することで、社会教育委員お一人お一人や事務局担当者のモチベーションが高まることにつながると考えられます。

そのために全国大会と地区大会があり、「社教情報」などが発行され、さらに地区ごとの活動や都道府県単位の研修機会、さらに広報紙やしおりの発行などが実施されているのでしよう。その意味では、都道府県・政令指定都市の社会教育委員連絡協議会等の担当者や全国大会・地区大会等の担当者が持てる力を存分に発揮できるように支援することも大切だと感じ、考えています。

都道府県・政令指定都市の社会教育委員連絡協議会の皆様に頼りにされるよう、引き続きさまざまな面で、運営に努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事会・総会報告

令和4年度

第3回理事会・総会の開催

令和4年度第3回理事会は、令和5年3月3日(金)に、対面とオンラインを併用して開催されました。また、総会は同日に対面で開催されました。

総会では、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課・榎木奨悟課長補佐に「最近の社会教育施策の動向」と題してご説明をいただきました。

理事会及び総会の議題等は次のとおりでいずれも承認されました。

【議事】

第1号議案 令和5年度事業計画

(案)・収支予算(案)について

第2号議案 第65回全国社会教育

研究大会(宮崎大会)について

第3号議案 第66回全国社会教育

研究大会(茨城大会)について

第4号議案 第67回全国社会教育

研究大会(岩手大会)について

【報告】

1 第64回全国社会教育研究大会

(広島大会)について

2 中央教育審議会教育振興基本

計画部会に係る意見募集への対応について

令和5年度 第1回理事会・総会、第2回理事会の開催

令和5年度第1回理事会は、令和5年5月12日開催の予定でしたが、定款第29条等の規定に基づく「みなし決議」の方法が採られました。なお、同日の理事会は報告等が行われました。

同日の第1回総会では、文部科学省の藤江陽子総合教育政策局長に来賓としてご臨席いただき、ご祝辞をいただきました。

また、総会で次期役員について承認をいただいた後に休憩に入り、その時間に新役員による第2回理事会が開催されました。その場では、定款第19条等に基づき次期の会長等が決定されました。

第1回理事会

【議事】(みなし決議)

第1号議案 令和4年度事業報告・決算報告について

第2号議案 第65回全国社会教育

研究大会(宮崎大会)について

第3号議案 第66回全国社会教育

研究大会(茨城大会)について

第4号議案 第67回全国社会教育

研究大会(岩手大会)について

第5号議案 次期役員(理事・監

事)について

宮崎県からのメッセージ

「日本のひなた宮崎」から発信する明日の社会教育



人生一〇〇年時代といわれる中、令和4年4月1日の民法改正による成年年齢の18歳への引き下げに伴い、若い世代の主権者意識の涵養が重要になってきています。また、高齢者に至っては、高齢者雇用安定法の一部改正により、70歳までの就業機会の確保も図られ、高齢者ならではの活躍の場があり、元気に暮らせる社会をつくることも求められています。今後は、子どもから大人まで様々な場や機会

で学び続ける社会教育をこれまで以上に考えていく必要があります。また、近年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、日常活動が制限され、県民の学びに対する機運の停滞とともに、人間関係の希薄化が懸念される事態も見られました。各地域において、どのように社会教育を進めていけば良いか、悩まれたことと思います。そのような状況の中、昨年度広

島県で3年ぶりに全国社会教育研究大会が参集型で行われました。実際に参加させていただき感じたことは、都道府県を越えて他地域の方と直につながることに喜びました。

久しぶりに同じ空間の中で、全体会の講演やシンポジウム、そして分科会を通じて、参加者間で高め合っていることを実感できました。

まさに次代を創っていくのは「人」であり、様々なつながりの中で、学びと活動が次々と生まれ、地域住民が主体となった地域の課題解決や地域の活性化が図られ、それが、「未来へのたすき」になると感じております。

今年度は、全国社会教育研究大会が宮崎の地で初めて行われます。5月から新型コロナウイルスが五類に移行となり、感染対策の徹底や日常生活の制限が徐々に緩和

されてきました。現在、アフターコロナの中で、改めて地域住民同士がつながりを深め、ウェルビーイングの向上を見据えた地域コミュニティの充実を目指した機運が高まりつつあるこの時に行われる本大会は、大変意義のあるものになると感じております。

本大会では、全国各地の特色のある実践にふれながら、互いに共有し、実践を各地に広げ、それらの実践が引き継がれることで、将来にわたって誰もが生きがいを感じ、笑顔があふれる地域社会の創出につながる大会にしたいという強い思いのもと、昨年度から実行委員会を立ち上げました。

「宮崎県に来てよかった」と思っていただけのような大会となるよう、準備を進めております。宮崎県は、今年度、WBC侍ジャパンやラグビー日本代表の合宿が行われました。皆様が来県される

11月は、秋風が心地よく、多くのプロスポーツの秋季キャンプが行われます。

また、日南海岸や、綾町の照葉樹林で自然の豊かさ、県内各地にある神社で「神話のふるさと宮崎」を体感されるなど、大会後は宮崎の旅も楽しんでいただけたらと考えております。

さらに、宮崎といえば、宮崎牛、日向灘で採れた伊勢エビ、チキン南蛮やレタス巻きなど宮崎発祥の料理、地鶏に焼酎と、おいしいものがたくさんございますので、「味覚の秋」を堪能していただければと考えております。

「日本のひなた宮崎」から、みなさまのご来県を心よりお待ちしております。

第65回全国社会教育研究大会宮崎大会

実行委員長 井崎 高信



ご案内

第65回全国社会教育研究大会 宮崎大会

つなぎ・つながり・つなげよう！未来へのたすき！！
～日本のひなた宮崎からはじまる明日の社会教育～

●研究主題

笑顔あふれる地域を創る社会教育の実践



●日時・会場・内容

【全体会】 令和5年11月9日(木) 12:30～17:00 宮崎市民文化ホール

《全体会のおすすめポイント!》

- オープニングのフラダンスステージ
- 「神話と牧水のふるさと宮崎」から生涯学習の在り方を再考する特別対談
- 「社会教育の学びを生かし、人と人をつなぐ」をテーマにしたシンポジウム



【分科会】 令和5年11月10日(金) 9:30～12:00

宮崎市民文化ホール、ニューウェルシティ宮崎、宮崎市民プラザ

《分科会のおすすめポイント!》

- 5つのテーマごとに事例発表や意見交流を行う分科会
- 「学校・地域の連携・協働」「家庭教育支援」「高齢者と社会教育」
- 「地域の活性化」「社会教育委員の役割」



●日程・内容

第1日 11/8 (水)	15:00											16:30											17:00											18:30										
	全国社教連 理事会											都道府県・政 令市社教連等 事務局担当者 会議																																
第2日 11/9 (木)	九州ブロッ ク社会教育 委員連絡協 議会理事会		全国社会教育 委員連合 総会				受付		全体会																																			
			総会				分科会 打合せ		ア トラ ク シ ョ ン		開 会 行 事		特 別 対 談			シ ン ポ ジ ウ ム			開 会 行 事																									
第3日 11/10 (金)	9:00 9:30		12:00																																									
	受 付		分科会 (5分科会)																																									

●参加費 5,000円

●申込方法【申込締切9月22日(金)】

①URL <http://www.mwt-mice.com/events/kyoiku65-miyazaki>

②二次元バーコード **申込サイト**



●問合せ

宮崎県教育庁生涯学習課

☎0985-26-7245

本大会の開催要項は新
生涯学習総合情報提供システ
ム「みやぎき学び応援ネット」から
もダウンロードが可能です。



<https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/miyazaki2023.html>

北から南から

時代の変化の波に 立ち向かう！

福井県社会教育委員連絡協議会

会長 徳本達之



○「昭和」の組織は壊滅状態！

地方では時代の変化の波にのまれて、多くの組織・団体が課題に直面しています。

子ども会、PTA、青年会・壮年会、婦人会など各種団体も、少子高齢化による会員減少、担い手不足など存続そのものが危うくなっています。

社会教育委員の活動も、生涯学習・社会教育分野の行政説明を受

け質問や意見を述べるだけではなく、他の○運営審議会等と同様に形骸化してその存在意義が問われかねません。時代の変化に応じて一歩踏み込んだ活動が求められていると思います。

○自主研究・活動と教育委員会への提言

私が初めて社会教育委員を委嘱されたのは、平成12年度。ちょうど学校週五日制が段階的に実施され地域社会での子どもの受け皿作りが問題となっている時期でした。当時の委員長のリーダーシップにより、「地域で子どもを育てる会」と「ハギの会(敦賀市の花)」の2つの分科会を作り、子どもと保護者へのアンケートやハギの花の植樹などの活動を行い、教育委員会に提言書を提出することとなりました。


以来、2年間の任期ごとに中高校生の居場所の創出、子育てにやさしいまちづくり、家庭の教育力向上、公民館活動の活性化などのテーマで自主研究・活動を行い提言書を提出することを継続して行っています。

○家庭教育指針の策定と提言内容の事業化

令和2年には、家庭教育のポイントをまとめた「家庭教育指針」家庭教育7つのすすめ」を策定し、提言内容をまとめたハンドブックを作成し子どもを持つ全世代に配布することになりました。全小中学生保護者を対象とする家庭教育講座を継続的に開催するなど、提言内容をフォローアップして教育委員会の事業として定着することも多くなっています。

○社会教育から「まちづくり」へ

令和2・3年度は、明治に出来た鉄道遺産が「日本遺産」に登録されたことを機に、「鉄道遺産ストーリー」と郷土愛の醸成について」の提言を行いました。市役所観光交流課・新幹線誘客課、観光協会、NPOなども連携し、社会教育から「まちづくり」・観光や地域振興にも繋がる分野の提言となりました。地方は難しい諸課題が山積していますが、社会教育委員が自ら活動し幅広く社会教育について発信・行動していくことが大切だと思っています。



社教情報 No.89

社教情報 No.89

令和5年9月発行

特集テーマ 家庭教育支援と社会教育

《巻頭言》 地域全体で「家庭教育」を応援しましょう！
前 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 課長 黄地 吉隆

《特集》 田中壮一郎、比嘉 里奈、宮崎 良一、藤原 郁仁、西郷 泰之
《この人に聞く》 猪俣 礼治氏 取材 清國 祐二

《思考と提言》 子どもの権利実現のための家庭教育支援へ 池本 美香

《社会教育委員の活動》 浅野 秀重(石川県)・井浦 政義(古賀市)

《答申・提言》 (提言) 『学び』と『つながり』が拓くこれからの社会教育
～一人ひとりのウェルビーイングの実現をめざして～ 細川 恵夢

《社会教育委員Q&A》 「社会教育士」とは 神部 純一

編集・発行 (一社) 全国社会教育委員連合

共生社会に向けた 大阪市の生涯学習計画

大阪市社会教育委員会
議長 赤尾勝己



2023年2月から大阪市社会教育委員会議長を務めております赤尾勝己です。ふだんは関西大学で、生涯学習概論(一)、生涯学習支援論(一)、社会教育経営論(一)、社会教育実習などの授業を担当しながら、社会教育主事(社会教育士)の養成に携わっています。

大阪市の生涯学習推進計画はこれまで4次にわたって策定されてきましたが、私は大阪市社会教育委員会副議長として2022年3月の第4次計画の策定に立ち会う機会に恵まれました。私は仕事柄、全国の自治体における生涯学習推進計画を読む機会があります

が、大阪市ほど格調の高い内容をもった計画を見たことがありません。

まず、1992年に策定された第1次計画では、「生涯学習とは、基本的人権、自由、民主主義、ノーマライゼーション等の人間尊重の考え方を基本として、1人ひとりが人生のあらゆる段階や場面において、出来る限り自己実現をめざし、自己に適した手段・方法を選んで、自ら進んで行う自己教育活動であるとともに、学習者がその成果を社会に広げ、よりよい社会への変革を担っていくことができするための学習とします。」と定義されています。

この時代にすでに「ノーマライゼーション」という言葉が使われているのは、時代の先を読んでいたということでしょう。これは、障がいや有する方々がごく普通に学習施設を利用できるようにスロープやエレベーターを設けるなどして、施設を「普通にすること」を意味します。今日の「合理的配慮」の先駆けと言ってもよいでしょう。

次に、第4次計画では、基本理念は「つながり、支え合い、共に

育つ生涯学習の推進」であり、「生涯学習」とは「多様な全ての市民一人一人が、誰一人取り残されることなく、その生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所で自らに適した手段や方法で学ぶことができること。また、『市民力』を身につけ、学びや活動の成果を活かすことにより、ひとやまちとつながり、支え合い、共に成長していくこと。」「支援を必要とする人の学びを支え、エンパワーメントを図るとともに、多様性(ダイバーシティ)と包摂性(インクルージョン)の観点に基づき、全ての人の人権が尊重される社会の形成をめざします。」と規定されています。

ここには、「共生社会」に向けた生涯学習支援が意識されていることがわかります。問題は時代の先端を示すこうした高い理念の下で、どれだけのことが大阪市内において実現されていくかです。今後とも皆様とともにしっかりと見守り検証して参りたいと思います。

バックナンバーのご案内 社教情報

A5判 64頁/定価360円(本体価格328円) / (年2回発行)

全国でご活躍の社会教育委員の皆様を結ぶ、全国各地の社会教育委員の活動の交流と研修の資料としてご活用ください。

- 第80号(平成31.2)「地域で活躍する社会教育委員」
- 第81号(令和元.9)「社会教育研究大会の企画と運営」
- 第82号(令和2.2)「社会教育委員の研修」
- 第83号(令2.9)「社会教育士(称号)の創設とこれから」
- 第84号(令3.2)「新しい生活様式下における社会教育委員と関係行政・機関の対応と課題」
- 第85号(令3.9)「社会教育委員の新たな流儀～社会教育委員設置の通知から75年～」
- 第86号(令4.2)「地域学校協働活動と社会教育」
- 第87号(令4.9)「地域防災と社会教育」
- 第88号(令5.2)「多文化共生と社会教育」



編集・発行 (一社) 全国社会教育委員連合

令和5年度 全国社会教育委員連合表彰 受賞者名一覧

本年度の「全国社会教育委員連合表彰」の受賞者が決まりました。令和5年11月9日(木)、第65回国社会教育研究大会(宮崎大会)開会行事の席上で、次の57名の方が表彰されます。おめでとうございます。

表彰状受賞者(敬称略)

Table with 3 columns: 都道府県名, 所属自治体, 氏名. Lists 57 award recipients across various prefectures and municipalities.

事務局だより

今後の会議予定

- 令和5年度第3回理事会
令和5年11月8日(水)
時間: 15時から16時30分まで
会場: 宮崎県防災庁舎
令和5年度第2回総会
令和5年11月9日(木)
時間: 10時から11時30分まで
会場: 宮崎市民文化ホール
都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会事務局担当者会議
令和5年11月8日(水)
時間: 17時から18時30分まで
会場: 宮崎県防災庁舎
令和5年度第4回理事会
令和6年3月上旬
時間: 11時から13時まで
会場: 日本弘道会ビル8階講堂
令和5年度第3回総会
令和6年3月上旬
時間: 14時30分から16時30分まで
会場: 日本弘道会ビル8階講堂



元会長 鈴木 勲様(享年九十八歳)におかれましては令和五年七月十六日(日)に御逝去されました。鈴木様は平成五年六月から平成十四年二月まで会長をおつとめになりました。ここに謹んでお悔やみ申しあげお知らせいたします。

↓3ページ続き

第6号議案 顧問の選任について
第7号議案 事務局長の選任について

【報告】(対面)

- 1 電磁的方法による決議の結果及び補足説明について
2 第64回全国社会教育研究大会(広島大会)について ほか

【議事】

第1~5号議案までは理事会に同じ。(承認後休憩に入り、第2回理事会を開催し、次期の会長等を決定)(再開して) 【報告】

- 1 令和5・6年度の役員構成について
2 顧問の選任について
3 事務局長の選任について
4 第64回全国社会教育研究大会(広島大会)について ほか